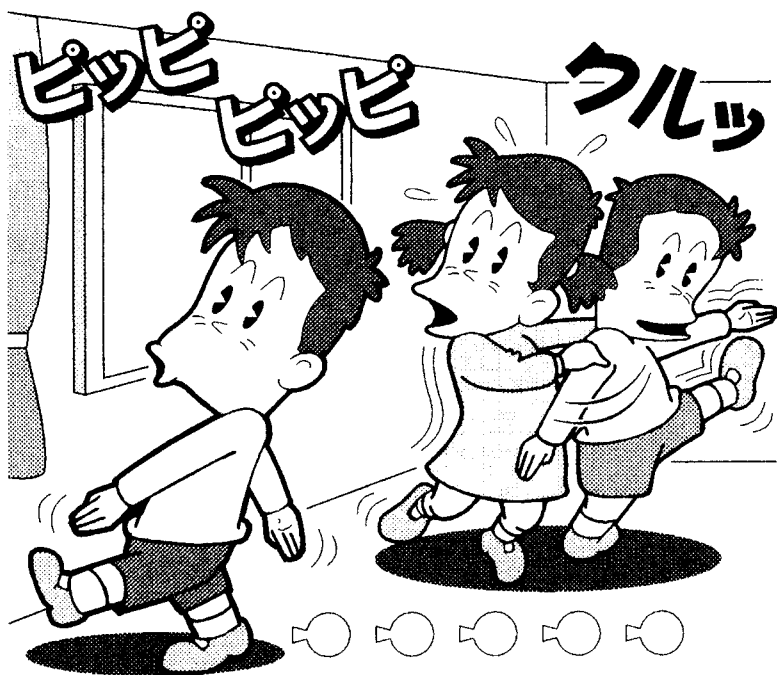


あそびのレシピ



危険を知らせて安全歩行

ブリキのロボット工場

子ども会などで遊びを指導 一体誰なのかと考える遊びです。子ども会などで遊びを指導 一体誰なのかと考える遊びです。動き回っている様子を時々見かけます。今回は、子どもと一緒に集いの主人公は、遊びを通して子ども

ちに何を体得してほしいのか、まずはみんなで楽しい時間を過ごしながら考えてみましょう。ただ遊ぶだけでなく、その体験を通して見えてくるものをみんなで出し合えば、新しい発見があるかもしれませんよ。

【人数】 20-30人
【場所】 教室や体育館 【道具】 なし
【遊び方】

① 3人1組をつくる。うち2人は出来たてのブリキのロボット役。残りの1人はロボット製作技師の役になる。

② 試作のロボット2体が出来上がったなら、さっそく試運転開始。ロボットは直進しかできないが、スピードは自分で調整できる（高速運転機能はない）。自分で止まることはできない。

③ ロボットはブリキ製なので、壁や障害物にぶつくと壊れる。しかし、ロボットには危険探知能力があり、障害物に近づくと警告音を出す機能を持つ。

④ ロボットの進行方向を変えられるのは製作技師だけ。ロボットは、危険物に近づくと警告音を出して、製作技師に方向転換してもらい、直進を続ける。

⑤ スタートする前に、3人でどんな音の警告音にするか決めよう。

⑥ しばらく遊んだら、役割を変えてみる。長時間、安全運転をするためにはどうすればいいのかなど、みんなで話し合いながら楽しもう。

九州あそびの研究所・中島宏所長
問い合わせは092(882)0363